



今月のカレンダー 「リス」

カリカリという音がクルミの木の葉からしてきたら、いよいよ秋、木の上でリスが堅いクルミの殻をかじっている証拠です。リスが一つのクルミの殻をかじって割るのに、早くて七〜十分、遅いリスだと四〇分以上もかかります。でも、脂肪に富む中身はリスの大好物。一度クルミの木を見つけると朝早くから毎日のようにやってきます。リスはクルミの実を食べておなかがいっぱいになると、今度は実をくわえて運び、地中に埋め、貯蔵します。食物のたりなくなる冬に備えるためですが、リスが食べ忘れた実から翌春クルミの芽があらこちにふきだします。

今回から三回にわたり、成人期に関する統計を紹介しします。まず一回目は、「死亡」に関すること。死亡原因の今と昔：高齢化が進み、医学が進む中で死亡原因も少しずつ変化しています。図1を見ると、昭和三十五年では、脳血管疾患（脳血栓・脳出血など）が第一位となっていました。そ

れが昭和六十一年には、心疾患が第一位となり、ガン、脳血管疾患と続いています。脳血管疾患は、医学の進歩とともに原因に対する治療と発病後の早期対応が進歩してきたため死亡が減少したと考えられます。また、四位の老衰は、八十歳以上がほとんどですが、今後、高齢化がすすむ中でいかに自然死という形で死をむかえるかが大きな課題となる

でしょう。

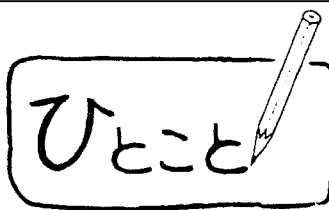
ガン

四位から二位へ
その内訳は？

市では、四位から二位へ。全国では死亡率のトップを占めるガンは、図2の通り胃ガンが第一位となっています。しかし近年、この胃ガンは集団検診の普及により早期発見、早期治療がなされ死亡率は減りつつあります。これにひき

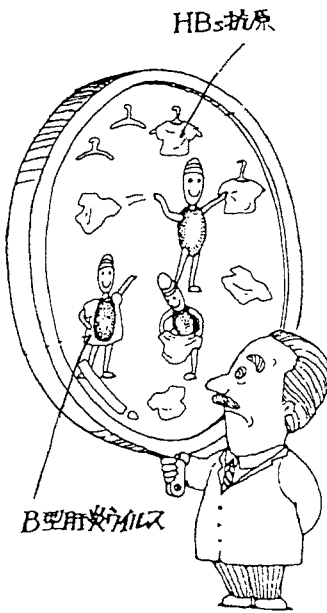
かえ肺ガンや肝臓ガンによる死亡は増加傾向にあり、今後の対策が必要となります。年代別にみた死亡原因は：図3のように、四十歳代では他の年代にはみられない肝疾患（肝硬変など）が第三位にあります。また、七十歳以上になると脳血管疾患がふえ老化による動脈硬化等の影響も考えられます。死亡原因のほとんどが成人

病である現在、それを予防・管理してゆく中で、病氣と共存しながら自然死をむかえることが理想とも言えるでしょう。『まだ若いから』、もう年だから』という考えは捨て、身のまわりにある様々な健康を確認する機会（集団検診・健康相談・健康教育）を積極的に活用して、人生の終りの日まで健康的に生活していける様、努力しましょう。



B型肝炎キャリアとは

B型肝炎ウイルスは持っている人も発病していない人のことを言います。また、日本人のキャリアの九〇％は主に分娩時に母から子に感染する母子感染によるものといわれます。キャリア人口は約二〇〇万人。現在キャリアは、国民の約二％で二〇〇万人といわれ、その九割は、発病しない無症



状性キャリアです。しかし、残る一割は慢性肝炎になる人も多く、放っておけば致命傷ともなる肝硬変や肝がんにつながります。ウイルスの対策ワクチンの開発が盛んに行われていきます。昭和六十一年一月から、キャリア妊婦から生まれた児に対して、予防注射がされるようになり、母子

感染を予防します。これにより、三十年後には、キャリアが最も少ない国となるでしょう。キャリアの日常生活の注意日常生活は全く普通にかまいませんが、歯ブラシ・ひげそりなど血のつくものは専用におきましょう。また、年に一度定期検査を受けましょう。